

授業①

ガザ戦争の人道危機はなぜおきたのか

講師 中西 久枝

(同志社大学大学院

グローバル・スタディーズ研究科教授

名古屋大学名誉教授)



1

2

愛・知・みらいフォーラム

夏休み特別講座

授業①：ガザ戦争の人道危機はなぜおきたのか

2024年7月27日

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科
教授
名古屋大学名誉教授
中西久枝

はじめに

現在2つの戦争が進行中—ウクライナ戦争とガザ戦争

なぜ、今日はガザ戦争を取り上げるのか

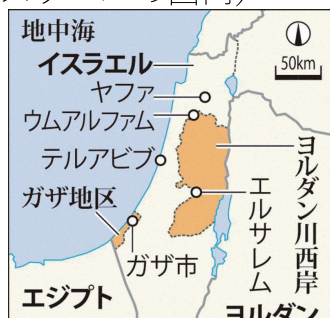
- ① これほどの人道的危機は、他の戦争や紛争で見られない
 - ② アメリカ国内の政治（ロビー活動と選挙など）が、直接的にガザ戦争の終わりに影響している
- * トランプ元大統領が勝利した場合は、さらにガザの問題は解決の道が見えなくなる。

日米安全保障条約の下で、日本の安全がアメリカの軍事力に依存している日本にとって、アメリカ政治にも、アメリカ政治の影響のある世界の紛争や戦争にも目を向ける必要

3

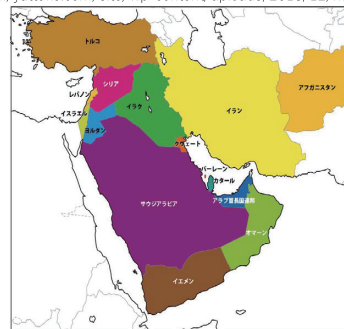
4

ガザ地区とはどこか—パレスチナ地域の
一つ（イスラエルの国内）



イスラエルはどこか？

[<https://i1.wp.com/yattoke.com/site/wp-content/uploads/2018/12/m-east-country-int.jpg?ssl=1>]



ガザの問題を考える前に

1. パレスチナ（ヨルダン川西岸とガザ地区）の紛争はなぜおこったのか

- A. イギリスの3枚舌外交（1915～1917年）がもたらした混乱
 - 第一次世界大戦への戦争協力を取り付ける目的の約束
 - ①アラブ側、②ユダヤ人側、③フランス それぞれ密約
- B. イギリスの委任統治下後—欧州からのユダヤ人移民の急増し対立
- C. 1947年の国連決議—分割案—パレスチナ人側が受け入れないと1948年のイスラエルの建国

2. パレスチナの紛争はなぜ続くのか

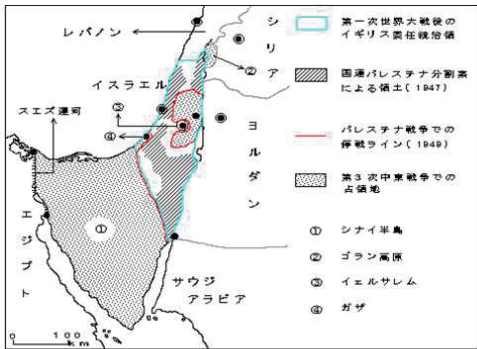
1967年の第三次中東戦争でイスラエルは軍事占領した地域
ヨルダン川西岸とガザ地区（パレスチナ）—今も占領下
シリアのゴラン高原—返還せず、国連軍が平和維持活動
エジプトのシナイ半島—1980年にエジプトに返還

「アラブ諸国がパレスチナを見放してきた」とパレスチナ人は考えている

湾岸戦争（1991年）：パレスチナ人はサウディから追い出される

アブラハム合意（2018年）とトランプ政権のエルサレムに大使館を移す動きに反対しなかった

中東戦争によるイスラエルの領土の拡大



中東戦争によるイスラエルの領土の拡大

2. パレスチナの紛争はなぜ続くのか

パレスチナ人の蜂起（インティファダ）が1989年頃より続き、1993年オスロ合意（アメリカの仲介でイスラエルとPLOが合意）—パレスチナ人の「自治」地域を徐々に拡大する計画破綻した理由 ①PLOは西岸側の代表者でガザ地区のハマスは合意に反対

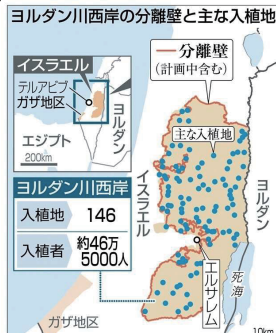
—ガザ地区は高いフェンスで閉じ込められた

②イスラエル軍がパレスチナを軍事的に占領している状況には変化なし

2005年以降の西岸での分離壁の建設—いまだに壁建設は続く

ユダヤ人入植地の拡大と分離壁の関係

[https://www.nishinippon.co.jp/in/uploads/image/1589617/large_fbe65df446.jpg]



3. パレスチナ人の生活

分離壁は、ユダヤ人入植地の拡大のため

①入植地の拡大と分離壁で、家から追い立てられる

②分離壁（西岸）を超えて学校や病院に行くのに「許可証」が必要、検問所を通れないときは移動できない（職場に行けない、買い物に行けない、病院に行けない）

③ガザ地区は2005年までイスラエル軍が駐留、その後駐留はないが、フェンスで囲まれ、出稼ぎに行けない。

2006年のパレスチナ評議会選挙でハマスが勝利—民意による

* 欧米、日本はハマスをテロ組織と認定

2つのパレスチナ

パレスチナ自治政府（オスロ合意後の選挙で設立）のリーダーはファタハ

2. イスラエルと直接交戦してきたのはハマス

2006年－イスラエル・ハマス戦争（1か月）

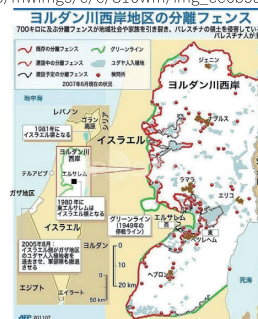
2006年－イスラエル・ヒズボラー（南レバノン）戦争

* 現在もガザ戦争が終結しなければヒズボラー（イスラーム過激派組織、イランの後押しがある）は、「イスラエルを攻撃し続ける」と声明

3. ガザ地区は狭い－世界で最も人口密度が高い

ヨルダン川西岸の分離壁と入植地

[https://afpbb.ismcdn.jp/mwimgs/e/e/810wm/img_ee6b5ace053675984c0781cb91b26dee235957.jpg]



現在のガザ戦争（2023年10月7日開戦～今）はなぜ起きたか

イスラエルの主張

ハマスがイスラエル市民を殺害する事件を起こしたのでその報復として、ガザ地区に軍事進攻した。

ハマスの主張

ウクライナ戦争後、ガザ地区で起きている人権侵害と生活苦を世界が見捨てた－ハマスは世界に訴えるために事件を起こした。

* 両者の主張は異なるが、現況はどうか？

* ガザの人道危機はどのようなものなのか？

4. ガザの現在の状況はどのようなものか

死者数：39000人

人道危機に直面する子どもの数 150万人（ユニセフの統計）

食糧、水が人々に届かない、家族ががれきの下、逃げてても逃げててもミサイルが飛んでくる

病院や学校は破壊－「ハマスが潜んでいるから攻撃対象にする」
「攻撃し続けることが、停戦を促す」とイスラエルは主張

https://www.unicef.or.jp/kinkyu/gaza/?utm_source=bing&utm_medium=cpc&utm_campaign=bing_main_search_emergency_gaza_phrase&utm_term=ガザ人道危機&utm_content=ガザ人道危機

5. 国連での紛争の解決のしくみと問題点

1. 国際人道法が、現在守られていない

武力の行使は禁止されている（国連憲章）が、
万一紛争が始まった場合、戦争の仕方には人道的配慮が必要

* 一般市民は攻撃してはいけない

* 民用物（病院、学校など）は攻撃してはいけない

イスラエル軍は攻撃を繰り返す

2. 国連安全保障理事会の決議

2023年10月はアメリカが停戦に反対

2024年6月になり、ようやく段階的な停戦が決議された

<https://www.nishinippon.co.jp/image/721920/2023年10月27日の国連決議>

ガザ情勢を巡る 国連総会決議案への投票結果

賛成 (121カ国)	中国、ロシア、フランス、 サウジアラビア、エジプトなど
反対 (14カ国)	米国、イスラエル、オーストリア、 ハンガリー、チェコなど
棄権 (44カ国)	英国、ドイツ、イタリア、カナダ、 日本、韓国など

※不参加14カ国

2024年6月の国連安全保障理事会決議

[https://www.ats.com/news/images/n136/1352388/PN2023110801000260---.CI0003.jpg]

2024年6月10日

・国連安全保障理事会は10日、アメリカが提示したイスラエルとイスラム組織ハマスの停戦案を支持する決議案を採択

条件

- ① 「全面的かつ完全な停戦」
- ② ハマスに拘束されている人質の解放、死亡した人質の遺体の返還
- ③ パレスチナ人囚人の交換

理事国15カ国のうち14カ国が賛成した。ロシアは棄権した。

* 決議は、イスラエルが停戦案を受け入れているとし、ハマスにも同意するよう求めている。

国連安全保障理事会決議—6月10日 3つの段階

- ・第1段階：人質と囚人の交換と、短期の停戦を実施する。
- ・第2段階：「敵対行為の永続的な終結」と、イスラエル軍のガザからの全面撤退などを実現させる。
- ・第3段階で、ガザを長期的に展望し、複数年にわたる復興計画を開始する。

* バイデン大統領は「この停戦案にイスラエル側が同意した」と述べた。しかし、ネタニヤフ首相はいまだに、アメリカの停戦案への支持を表明していない。

* ハマスの側は、この停戦案が永続的な停戦と、イスラエル軍のガザ全面撤退を要請しているが、現実的にイスラエル軍は撤退するようすなし

イスラエルのガザ攻撃を巡る比較

日本	アラブ諸国
強硬なイスラエルが受け入れられるよう「一時的な戦闘中断」を主張。米国と歩調を合わせる形	即時停戦を要求。停戦拒否のイスラエルへの反発を強める。停戦を求めるデモや集会が相次ぐ
棄権。「全体として内容にバランスを欠いており、わが国として総合的に判断した」(岸田首相)	賛成。決議案はヨルダンが提出し、121カ国の賛成で採択された。即時かつ持続的な人道的休戦を求めた内容
明言せず。「法的な判断をする立場にない」(首相)。一般的見地から国際法順守を要請	国連のグテレス事務総長と共に国際法違反を主張。パレスチナ自治政府の国連大使は戦争犯罪だとしてイスラエルを非難

グループ討論

1. ガザ地区とヨルダン川西岸のパレスチナ人の置かれた状況はどう違うか
2. ガザ戦争を終わらせるのに、①アメリカができること、②日本ができること、③国際社会ができること
3つのうち、1つか2つを選んでください。

グループのリーダーを決める、討論の取りまとめをする
そのあとで発表をしてもらいます



ユダヤ教、キリスト教、イスラームの3つの宗教の聖地がエルサレム (2006年3月5日筆者撮影)



イスラエル側とヨルダン川西岸とを分断する分離壁、2005年以来建設が続き、パレスチナ人の集落が塙に取り囲まれ、社会的サービスへのアクセスが困難に (2005年8月9日 エルサレム近郊にて筆者撮影)